

《担当者名》泉唯史 izumi@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

生命の恒常性を維持するため、また安定して活動的な生活を保障する全身体系のひとつである呼吸・循環器系の形態学および機能学的側面からリハビリテーションを考える。呼吸器障害と循環器障害とは症候学的かつ障害学的に相互に関連しながら評価および治療を進めていかなければならない。受講者が抱えている内部障害に関連する臨床的課題を軸に、討議を通して理解を深めていく。

【学修目標】

一般目標

1. 内部障害の症候学的かつ障害学的解釈の基本を身につける
2. 内部障害合併例の臨床的課題をEBMに基づいて解決する能力を身につける

行動目標

1. 呼吸不全の症候学と障害学について説明することができる
2. 呼吸不全のリハビリテーションの最新のEBMについて検索し説明することができる
3. 心不全の症候学と障害学について説明することができる
4. 心不全のリハビリテーションの最新のEBMについて検索し説明することができる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	内部障害とリハビリテーション	内部障害とリハビリテーションの構造的な整理を行う。	泉唯史
2	呼吸不全と疫学的側面	呼吸不全の疾病由来と障害由来について整理を行い、症候学的解釈と障害学的解釈を試みる。	泉唯史
3	呼吸リハビリテーションの今日的課題	呼吸リハビリテーションの到達点の確認と今日的課題を臨床面と社会面において整理する。	泉唯史
4	呼吸器系の生理学と運動学	呼吸器系のメカニズムについて生理学的側面と運動学的側面から整理する。	泉唯史
5	呼吸不全の病態生理学	呼吸不全の発症するメカニズムについて病態生理学的側面から整理する。	泉唯史
6	呼吸リハビリテーションのための医療情報とその解釈	呼吸リハビリテーションを進めるための情報収集とその解釈および背景にある病態との関連について整理する。	泉唯史
7	呼吸リハビリテーション（急性期）	急性期の呼吸不全あるいは術後の呼吸障害に対するリハビリテーションについて議論する。	泉唯史
8	呼吸リハビリテーション（維持期）	維持期にある呼吸不全に対するリハビリテーションについて議論する。	泉唯史
9	心不全と疫学的側面	心不全の疾病由来と障害由来について整理を行い、症候学的解釈と障害学的解釈を試みる。	泉唯史
10	循環器リハビリテーションの今日的課題	心臓リハビリテーションの到達点の確認と今日的課題を臨床面と社会面において整理する。	泉唯史
11	循環器系の生理学と運動学	循環器系のメカニズムについて生理学的側面と運動学的側面から整理する。	泉唯史
12	循環器疾患の病態生理学	虚血性心疾患および心不全の発症するメカニズムについて病態生理学的側面から整理する。	泉唯史
13	循環器リハビリテーションのための医療情報とその解釈	心臓リハビリテーションを進めるための情報収集とその解釈および背景にある病態との関連について整理する。	泉唯史
14	運動負荷試験とその解釈	心肺運動負荷試験の方法とそのデータ解釈について整理する。	泉唯史
15	循環器リハビリテーション	虚血性心疾患および心不全に対するリハビリテーションについて議論する。	泉唯史

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

出席を前提として、

1)和文および英文の文献抄読（50%）

2)臨床的課題に関する討議（50%）

により評価を行う。

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

1)Wasserman,K.（谷口興一監訳）；運動負荷テストの原理とその評価法 南江堂

2)Scot Irwin；Cardiopulmonary Physical Therapy Mosby

3)ACRPR（日本呼吸管理学会監訳）；呼吸リハビリテーション・プログラムのガイドライン LIFE SCIENCE PUBLISHING

【学修の準備】

参考文献以外にも関連分野の文献等を各自調査し学習する(予習・復習の合計で160分)。

【実務経験】

泉 唯史（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

急性期病院および大学教育における呼吸・循環・代謝に関する臨床実務および教育・研究に関する実務経験を基盤に、内部障害に関する国内外の文献抄読および研究方針について討議を通して講義を進めます。